

Y26b 東京国際科学フェスティバル開催～「科学」を通じた地域コミュニティの形成  
永井智哉、縣秀彦、内藤誠一郎、伊東昌市(国立天文台)、北原和夫(国際基督教大学)、伊藤幸寛(三鷹市)、滝川洋二(ガリレオ工房)、佐々義子(くらしとバイオプラザ21)、内田治(三鷹ネットワーク大学推進機構)、ほか東京国際科学フェスティバル実行委員会

東京国際科学フェスティバル実行委員会は、市民・子供たちが、科学を楽しみ、技術に親しむお祭りであり、地域における『科学好き市民』のコミュニティ形成や、科学文化の街としての観光資源、市民と企業、大学・研究機関、生涯学習施設、学校教育機関関係者との間のコミュニケーションの場となることを目的とした「東京国際科学フェスティバル」(<http://tokyo.sci-fest.net/>)を2009年9月12～27日の16日間、三鷹市を中心に調布市、府中市、武蔵野市、小金井市、国分寺市など都内全域を会場に開催する。

特に、三鷹市を中心とする地域には、居住地域のなかに、大学、研究機関、地場産業、博物館などが密集し、科学、技術、文化が、生活の場と隣り合わせで存在している。この地域の特徴を活かして、科学を楽しみ技術を親しむ人々の「地域の絆」を育み、将来は「世界の絆」へと広げていこうとする試みである。

本イベント開催により、「科学フェスティバル」がもたらす地域コミュニティ形成や科学コミュニケーションへの有効性を測るとともに、地域との連携による科学・地域コミュニケーションを増進する人材の育成を行って、科学文化による地域再生の先進事例となることを目指す。